

教 育 研 究 業 績 書

2025年 5月 1日

氏名 森 川 由 衣

研 究 分 野		研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
1. 教育学		教育学	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項			
事 項		年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例		2020年4月～ 現在	幼児教育に携わってきた経験を活かし、学生には実習の準備や心構え等、具体的にイメージし理解できるように進めている。また、現場の子どもたちの様子や保育活動、カリキュラム、印象的なエピソードなどを画像や動画で具体的に見せながら、細かく伝えている。学生からの質問や感想を取り入れ、質問に迅速に答えることで学びになるよう授業を進めている。
1)「幼児教育の方法と技術」の学生教育指導			附属幼稚園において学生が個人実習およびグループでの参加実習を行うため、実習先である附属幼稚園の担任教諭と連携しながら指導案作成の指導や省察の指導を行っている。省察会では振り返り意見を出し合い、学びにつながるよう努めている。
2)「教育実習Ⅰ」の学生教育指導			附属幼稚園で観察実習や参加実習を行うため、参加実習では実習先である附属幼稚園の担任教諭と連携しながら省察の指導も行っている。 いずれも座学とともに子どもについて目で見て肌で感じ、考察し、学びにつなげている。 保育現場で実際にあった子ども達のエピソードを用いて子どもの姿をイメージできるように努めている。実習で使用する教材の制作を行い、実践で使えるように細かく指導している。
2 作成した教科書、教材		2020年4月～	実際の保育現場の様子を録画し、編集したものを教材として活用している。 また、保育日誌や保育制作物に関する事項をとりまとめた教材を作成し授業内で活用している。
3 教育上の能力に関する大学等の評価			
4 実務の経験を有する者についての特記事項		平成17年4月～ 2022年3月	札幌大谷大学附属幼稚園教諭として札幌大谷大学短期大学部保育科の学生の実習を通年受け入れ、指導した。 具体的には実習に臨む姿勢、言葉遣い、子ども達への接し方、保育指導案の作成、実習内容などの指導をする他、学生との省察会も行ってきた。
5 その他			特記事項なし

職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項				
事 項		年月日	概 要	
1 資格, 免許		平成15年3月 平成15年3月 平成17年3月	幼稚園教諭2種免許（免許状番号：平一四幼二第九三五号） 保育士資格 取得（登録番号：北海道－005831） 幼稚園教諭1種免許（免許状番号：平一七幼一第八号）	
2 特許等			特記事項なし	
3 実務の経験を有する者についての特記事項		平成17年4月～ 2022年3月	札幌大谷大学附属幼稚園教諭として幼児教育に携わった。 子ども達一人一人の声をひろい、保育活動に取り入れながら子ども達の個性を伸ばしてきた。	
4 その他		平成17年3月	日本発達心理会 第16回大会 神戸大学にて「統合保育での自閉症児S男と他者の関わりの変容」についてポスター発表。本発表では特別な配慮を要する子どもの変化を捉え、幼稚園教諭の援助の在り方について検討した。	
		平成21年10月	第41回札幌市私立幼稚園教育研究大会 公開保育研究にて「クラス活動内容について」発表。 本発表では子どもたちの姿をもとに指導案の作成、実践、省察を繰り返しながら行った1年間のクラス活動について報告した。	
		平成22年10月	札幌市発達障がい支援センターおがるでの研究会にて「子どもたちとの関わりについて～S君の場合～」について発表。本発表では子どもを観察し、それを記録しながら子どもを理解し、またその子ども理解をもとに援助を行った保育実践について報告した。	
		平成22年10月	第19回日本仏教教育学会 幼児教育部会にて「札幌大谷大学附属幼稚園 教員共同発表 伝えよう仏の心～子どもたちが描くものの姿～」について研究発表。 仏教思想に基づく教育を行っている幼稚園としての子ども達への関わり方、カリキュラムに沿った仏教行事の取り組み等の保育実践について報告した。	
研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(学術論文) 1 オンライン授業に向けた取り組みの一考察	共著	2021年3月	札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部 紀要51号	(共同研究につき本人担当部分抽出不可能) 演習系授業科目『幼児教育の方法と技術』のオンラインでの授業実践について報告をし、その結果と課題を明らかにしている。段階を踏んで指導案作成を経験していったことにより、一つひとつの作成方法に対しての理解が深まり、発表などを通して多くの学生からの学びが良い刺激となっていた。また、指導案作成で見つけた自己課題を次の段階での指導案作成に活かしていくことで、自分自身の成長を目に見えて実感でき、自信にも繋がっていたと考える。 (共著者：森川由衣・秋山ゆみ子・清和友美)

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文) 2 保育実習準備室の有効活用に向けた学生への意識調査ー実践に結びつく主体的な学びの場についての考察ー	共著	2024年3月	札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部 紀要 54号	(共同研究につき本人担当部分抽出不可能) 学生の主体的な学習のために活用できる場所の保育実習準備室に学生が何を求めているのか等の意識調査を実施し、今後の保育実習準備室の発展に向けて考察した。 意識調査の結果、実習経験数により実習内容が異なっているため、実習準備として必要と意識することも異なるという結果が得られた。学生の利用する目的や実習に向かう考えにより、保育実習準備室の物品を有効活用でき、さらに主体的な学びの場となるような環境構成の工夫が必要であると考えられる。学生にとって実践に結びつく主体的な学びの場となるように、保育実習準備室の環境構成や関わり方等の考察を続けていく必要があることが明らかになった。 (共著者：清和友美・<u>森川由衣</u>・星信子)
3 部分実習の計画・実践における学生の実態課題把握に関する意識調査ー2年次学内短期実習での実践経験よりー	共著	2025年3月	札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部 紀要 55号	(共同研究につき本人担当部分抽出不可能) 学生が実習にあたり、苦手意識や不安、難しさを感じていることの一つである指導実習について、どのように捉えているのか、学生の現状と課題を明らかにするため、学内実習における部分実習についての学生による意識調査をもとに分析を行った。その結果、「教材」は、見えやすい教材や子ども達の楽しい・興味・関心といった子ども側の視点に立った考えを進めていること、部分実習計画・実践は、「導入とまとめ」について難しさを感じている学生が多いこと、「実践」は、計画と実践の違いに対する対応や、活動内容・進め方等の工夫の重要性を捉えられていることがわかった。 学生がどのような観点で教材を選択し、導入からまとめまでの保育内容を計画し、さらに実践をしてみたことによる良かった点・課題点を考えられているのか等について、部分実習実施における教材の検討から実践・振り返りについての一連の流れを通して捉えることができた。 (共著者：<u>森川由衣</u>・清和友美)

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(その他) 1 学内短期実習の振り返り—社会人力に着目して—	共著	2020年5月	日本保育学会 第73回大会	ポスター発表 学内短期実習の振り返りとして社会人基礎力を基にアンケート調査を行い、学生が社会人力についてどのように受け止めているかを集計、考察した。 結果、学内短期実習は社会人基礎力のさらに基礎部分の学びの機会であると考察した。 (共著 秋山有見子)
2 保育学生の社会人基礎力の意識変容—実習体験を経ての一考察—	共著	2021年5月	日本保育学会 第74回大会	ポスター発表 学内短期実習の振り返りとして社会人基礎力をもとにした継続研究である。前回の結果を踏まえアンケートを保育学生用として検討、改善し、学外で行われた実習体験（保育所、幼稚園、認定こども園など）を経て社会人基礎力にどのような変容が見られたかを本学保育科1、2年生を対象にアンケート調査（記名式）し考察した。 結果、実習体験により実践的な保育技術のスキルや理論的な学びと同様に社会人としての成長のきっかけになり、実習力が高まっていくことが分かった。 (共著 秋山有見子・清和友美)
3 実践的な演習系授業（グループ実習）においての社会人基礎力の育ちの一考察	共著	2022年5月	日本保育学会 第75回大会	ポスター発表 学内短期実習・学外実習の振り返りとして社会人基礎力をもとにした継続研究である。 過去2回の結果を踏まえ、本学で行っている附属幼稚園との連携を基にグループで行う実践的な演習系授業においての社会人基礎力の育ちについて、アンケート調査（記名式）し、主に自己評価コメントを基にねらいと関連づけて考察した。 結果、社会人基礎力の育ちは個々の生活経験や保育者になるために必要な学び等、全ての積み重ねによって養われていくものであることが分かった。 (共著 清和友美)

著書, 学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所, 発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(その他) 4 実践的な演習系授 業(グループ実習)の取 り組みにおける一考察	共著	2023年5月	日本保育学会 第76回 大会	ポスター発表 実践的な演習系授業で複数の学生で実践する学内実習に向け、グループワークがより取り組みやすくなる方法を検討した。グループ実習経験後の学生の気づきや学び、考察等の振り返りレポートのコメントを元に検討、考察した。 結果、グループワークが円滑に進んだグループには共通点が見られた。これら全ての要素が作用する環境を整えるために、教員からの働きかけも必要となり、同時に学生自身が主体となって進め、自身の考えや力を引き出し、学びを深めていくことができるような授業展開も重要であると分かった。 (共著 清和友美)